認定特定非営利活動法人
日本雲南聯誼（れんぎ）協会
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel：03-5206-5260　Fax：03-5206-5261
Email：yunnan@jyfa.org　URL：http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel.+86-871-3311468　Fax.+86-871-3320658

編集・発行人　初鹿野 惠蘭
印刷協力　日経印刷(株)　(株)技術評論社　デザイン ARTY STUDIO

彩雲の南

Japan Yunnan Friendship Association

会報

第39号
発行日　2011 年（平成 23 年）11 月 15 日

皆さん、夢を持って、大きく羽ばたいてくださいね！

◂300人にも上る聴講生が拍手でゲストを迎えます

25の小さな夢基金
―第3回「夢は叶う」講演会
2011年9月26日

◂第1回講演者・丘ヤス先生のご紹介に大盛り上がり

▴春蕾クラスの1年生は民族衣装で参加しました

◂第2回講演者・新井淳一さん（現協会顧問）も挨拶されました

◂初鹿野惠蘭理事長「皆さんが、夢を持って大きく羽ばたくお手伝いをしたい」

▴今回の講演者・アサヒグループホールディングス㈱相談役の池田弘一さん

▸最後は歴代の講演者が壇上に勢ぞろい。児童健診の石井勝己先生も（右端）

▴7月に引き続き、雲南大学の高明先生が通訳を担当

▴講演後はたくさんの質問が飛び出しました

▴日本語を勉強中の大学生は辞書を片手に聴講

▴事前に配布された資料を元に、真剣に聞き入ります

日本の大先輩たちが国境を越えて、雲南の子どもたちへ夢を届けにやってきた！

念願の！第1回 支援校児童巡回健診 in老木壩小学校
2011年9月27日

▾日本から持ち込んだ器材について説明する三木秀隆会員

▾生まれて初めての健診にドキドキ、ワクワク！

▸何せ初めてのこと、みんな興味津々です

▾せっかく採ったおしっこも、走って教室に着く頃にはほとんどなくなってしまいました

▴ボランティアの看護婦さんたちも真剣そのもの！

▸尿検査のあとは、しっかり手を洗ってね！

▴学校の教室を借りて、検査は行われます

▸視力検査も生まれて初めて。どこを見ればいいのかわからないよ?!

◂日本から石井勝己先生（北里大学名誉教授）がボランティアで駆けつけてくださいました

◂健診にはたくさんの大学生ボランティアが協力してくれました

◂昆明市延安病院の看護婦さん4名がボランティアで協力してくれました

▴小学校の先生方が作ってくださった昼食は絶品！

◂健診の合間には、大学生ボランティアが子どもたちとゲーム

◂注射されるのかな？怖いなぁ

▾怖いことは何にもなかったよ！よかった！

◂最後のお見送り。先生、お兄さん、お姉さん、また来てね！

詳しいご報告は2面をご覧ください

雲南の若者よ、大志を抱け！

第3回「夢は叶う」講演会

昨年、一昨年に続いて3回目を迎えた「25の小さな夢基金「夢は叶う」講演会」が、9月26日(月)、昆明女子中学で開催されました。

今年は、協会顧問で同講演会第2回講演者でもある新井淳一氏（元日本経済新聞社調査局長・現日本経済研究センター会長）のお力を得て、アサヒグループホールディングス株式会社相談役の池田弘一氏を講演者として招聘。新井淳一氏ご夫妻、第1回講演者の丘ヤス氏（米国アルバート・アインシュタイン医科大学名誉教授）ほか、協会関係者とともに同校を訪問し、春蕾クラスの1、2年生と雲南大学日本語学科の学生総勢約300名が熱烈な拍手で池田氏の登壇を歓迎しました。

池田氏は約2時間半にわたる講演の中で、業界トップの座から3位に低落したアサヒビールが再度1位の座を獲得し会社を立て直した経験をもとに、「どんなに不利な状況にあってもけっして投げ出さなかったこと、そして多くの人々とのつながりが現在の自分をつくっている」と春蕾生徒に語りました。講演会の最後には新井淳一氏、丘ヤス氏、翌日の児童健診のために雲南入りされていた石井勝己氏（北里大学名誉教授・医師）、協会会員の三木秀隆氏（メディネットインターナショナル代表取締役）も壇に登り、春蕾生徒に夢を持つことの大切さと励ましのことばを述べ、春蕾生徒はこれに大きな拍手で応えました。

なお、講演会では、7月の「25の小さな夢基金」卒業式・同窓会に引き続き、雲南大学滇池学院日本語学科の高明先生がボランティアで通訳をしてくださいました。

当日従事者（順不同・敬称略）

【講演者】池田弘一（アサヒグループホールディングス株式会社相談役）

【ゲスト】新井淳一、新井慶子、石井勝己、石井紀子、丘ヤス

【ボランティア】高明（雲南大学日本語科講師）、施明丹、李勇昕、姚遥、佟超、馮琴、高燕、劉穎、楊梅、何垠穎、向飆、蔡艶超、黎飛、阮琳舒、彭禎、張皓、崔雨蓋、楊雁舒、代亜軍、申雅璇、劉雪鈴、宇素梅、張鞦潔、黄育芬、呂暢、鄒霞、于桂蘭、陳莉莎、陳敏、楊凌霄、李迅言（以上全て雲南大学日本語専修生）、土田淳志、林則幸

【事務局】初鹿野惠蘭、平田栄一、林娜、王海琳【協力】秋葉哲（アサヒグループホールディングス株式会社）、昆明女子中学校

念願の！支援校児童巡回健診

ご協力頂いた石井勝己先生ご夫妻（前列中央）と三木秀隆会員（左端）、ボランティアの大学生、看護婦と共に

老木壩小学校の無邪気な子どもたち

みんな元気に大きくなってね！

9月27日(火)、フォローアップ事業の一環として支援小学校児童の健康診断が老木壩小学校（楚雄イ族自治州武定県）で行われました。この健康診断は一昨年秋に実施される予定でしたが台風接近により中止、昨年は中国国内で発生した暴動事件の余波を受けて再び延期となり、今回ようやく実現にこぎつけたものです。

今回、このプロジェクトの発案者である会員・三木秀隆さんのご紹介で北里大学名誉教授の石井勝己先生にご協力をいただき、同行された奥様の石井典子氏にも先生の助手として大活躍をしていただきました。また、昆明市延安医院の看護士4名、雲南大学日本語学科の学生13名と市民ボランティア2名も支援に駆けつけてくれました。老木壩小学校には3学年までの児童80名と教師7名が在籍。ほぼ全員が健康診断を受診しました。2年生のある女子児童は体温測定が初めての経験だったようで、泣きだしてしまうハプニングもありましたが、健診開始とともに学生ボランティアの動きもスムーズになり、当初見積もった終了時間を待たずに完了することができました。石井先生によると「どの子も痩せてはいるが、大きな病気にかかっている子どもはいないようだ」とのことで、関係者一同安堵しました。

協会では、今後もこの健康診断を継続して実施し、子どもたちの健康管理や生活環境改善に繋げていきたいと思っています。

当日従事者（順不同・敬称略）

【コーディネート】三木秀隆【医師】石井勝己、石井紀子【看護師（昆明市延安病院）】龐雲珍、陳艶琴、蒋玲、楊涛【ボランティア】劉雪鈴、姚遥、胡露、代亜軍、張皓、佟超、劉穎、向驥、崔雨蓋、施丹丹、李勇欣、馮琴、楊雁舒、馬睿奇、史晨、土田淳志、丘ヤス【事務局】初鹿野惠蘭、平田栄一、林娜【協力】老木壩小学校、武定県教育局、楚雄イ族自治州統一戦線部

大学生ボランティアより

雲南大学滇池学院外国語学部
日本語科３年生　姚遥

12人の学生ボランティアの1人として、子どもたちの体重測定を担当しました。子どもたちは痩せて小柄で、栄養不足かもと感じました。今回の活動を通し、色々考えさせられましたが、日本人と中国人が一緒になって貧しい山岳地帯の小学生の健診を行ったということは、「人間」が普遍的に思いやりの心を持っているということの証明だと思いました。子どもたちや日本の先生方とのコミュニケーションできたことで、視野が広がり、とても勉強になりました。

「夢は叶う」聴講生感想のご紹介

講演会終了後、174名の皆さんが感想をよせてくださいました。一部をご紹介します。

◎今回の講演を聞いて、自分の夢にもっと自信を持つことができた。努力すれば夢はかなうと信じられた。努力してチャンスをつかむために、一生懸命勉強したい。

◎外の世界に対する認識が深まったし、多くのことを考えさせられました。成功したいなら、努力しなければならないと思いました。

◎具体例を挙げてわかりやすく話してくれ、刺激を受けました。夢はありますが、それを実現しようと考えたことはありませんでした。現実には無理だろうと思っていたから。でも、この講演を聞いて、頑張るべきだと思いました。

◎夢のためには強い信念を持ち続けなければならないと思った。アサヒビールのこともよくわかり、日本への興味も一層深まりました。

日本語専攻大学生の感想

雲南大学滇池学院外国語学部　日本語科３年生　佟超

池田さんは、今の成功を収めるまでに様々な苦労をされてきました。大学生としての私たちは、まだまだ苦労の経験が足りないんだと実感しました。そして、成功するためには自分の努力も重要ですが、チャンスも同じように重要なんですね。決してチャンスを逃してはいけないのです。

中国では「三人行えば必ず我が師有り」という諺があります。ぼくたちは、他人の長所を謙虚に見習って、自分の欠点を見つめなおすべきです。他人と協力することが大切だと思いました。

上海「森茂国際健診センター」披露パーティーで協会活動をアピール

▲初鹿野理事長「三木さんをはじめとする皆さまのご支援により、8,000人の少数民族児童が小学校を卒業できました」。8分間の協会活動PR映像も放映されました

当協会の会員である三木秀隆氏（メディネットインターナショナル代表取締役）らが運営する「上海森茂診療所」を拡充し、6月から中国で最先端の医療サービスを開始している「森茂国際健診センター」の内覧会及びレセプションが9月23日、上海で盛大に催され、国内外から約500名が参加しました。

三木会員のご厚意により、協会からも初鹿野惠蘭理事長をはじめ、岩間辰志顧問（サッポロホールディングス名誉会長）、新井淳一顧問、片岡巖顧問（技術評論社社長）らが参加、レセプションでは協会活動PRの機会が設けられました。

▲ 写真左から北本清・杏林大名誉教授（後にご入会）ご夫妻、田村様ご夫妻、新井淳一協会顧問ご夫妻

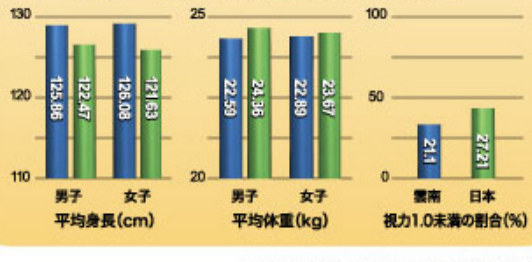
▲ 左から林則幸会員、片岡巖顧問、三木秀隆会員、岩間辰志顧問

少数民族の学童健診を行って

ニイハオとシェーシェーしか中国語を知らない私にとって、少数民族の学童健診を無事行えるか心配でしたが、現地で子ども達の興味深げで元気な顔を見て安心しました。健診は三木さんを始め多くの方々、子ども達の規律ある協力に助けられ無事終りましたが、年少の子どもの中には中国語が理解しきれず、通訳の通訳が必要な子もいました。肥満児はおらず、数人の貧血傾向と心雑音の1人のみでした。終了後、子ども達と写真を撮り、皆で見送ってくれるなど、貴重な心温まる経験でした。

（石井勝己＝北里大学名誉教授／医師）

第1回支援校児童健診データ



夏祭り！山形県酒田市で協会をPR！

PRの場を設けてくださった会員の佐藤芳明さん（写真中央）、さくら福祉会理事長）。協会チームは民族衣装で参加

祭りには様々な会員が用意され、参加者も徐々に盛り上がります

佐藤理事長のご紹介により、「協会チームも壇上から」雲南と協会活動をPR！

祭りの合間に酒田を案内してくださった会員の富樫とも子さん（写真中央）。雄大な庄内平野をバックに

夜の部の参加者は地域の住民など500人余り。一人一人に協会の資料をお渡ししました

翌日は山形名物さくらんぼ狩りに案内していただきました

現地会員で税理士の高橋竹夫さん。おだやかな合間を縫って、協会の運営にアドバイスをくださいました

夏祭り最の部には、さくらホームの利用者約300人が参加。民族衣装を褒めて頂きました

これがかの有名な佐藤純！笑右のようですね

夏まっ盛りの7月末、協会一行が山形県酒田市を訪れました。現地の会員・佐藤芳明さんのご厚意により、佐藤さんが代表を務める社会福祉法人の施設で、協会活動をPRすることになったのです。

酒田にお伺いしたのは、初鹿野理事長以下、スタッフや会員ボランティアなど計6名。7月23日に、社会福祉法人さくら福祉会が経営する30余りの施設のひとつ「さくらホーム広野」で開催された夏祭りに参加し、昼の部と夜の部の二度に渡って、協会の活動をPRしました。PR活動の甲斐あって、後日たくさんの入会申し込みを頂き、山形県酒田市近辺の会員さんは10月現在、30名近くにもなっています。協会酒田支部の設立も、そう遠くはないかも!?

ご協力頂きました佐藤芳明さくら福祉会理事長、さくらホームの皆さま、そしてご入会くださった皆さま、本当にありがとうございました！今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

【参加者（順不同・敬称略）】 初鹿野恵蘭理事長、平田栄一昆明特命支部長、林則幸、頓楠、事務局スタッフ（高橋瑞季、山田美葉）**【現地協力会員（順不同・敬称略）】** 佐藤芳明、佐藤正視、高橋弘幸、富樫とも子、富樫政則、高橋竹夫、高橋みさ子、さくら福祉会の皆様

協会ボランティア通信

理事長「滝澤さんは、シニアボランティアの生き方を示す」

理事長の怒りをかった「私より年齢は上ですね」発言（実際は17歳も違う）。周囲が冗談と笑っていたら、「自分の方が若い」と思い込む"天然の持病"の疑いが…常駐ボランティア滝澤崇さんである。今も"被害者"を生んでいる。

❶ 協会"イベント部長"滝澤崇さん。写真展から忘年会まで、協会のイベント運営はもはや滝澤さんなしでは考えられません！

❷ グローバルフェスタでも、イベントリーダーとして活躍してくださいました

10 月に東京日比谷公園で開催された恒例の「グローバルフェスタ」。今年も搬入作業など全般のリーダー格としてはつらつと動く滝澤崇さんの姿が見られた。

有名結婚式場に、支配人として長年勤めていた滝澤さん。協会を知るきっかけとなったのは、職場の先輩だった協会顧問の小澤さんのご紹介によるものだが、その姿を頻繁に見るようになったのは昨年 7 月の協会 10 周年記念事業でのボランティア活動からだった。その後 "常駐ボランティア" として整理整頓の力仕事から会報誌発送と協会になくてはならない大きな存在に "成長" していく様子は衆目の一致するところ。

初鹿野理事長は「定年退職をされてからの一つの生き方を示しています。知識や知恵のある滝澤さんのような志の高いシニアを歓迎します」と高い評価を送る。その滝澤さんは、「お手伝いしたのが『運のつき』でした」と冗談混じりで相好を崩す。一方で、技術評論社社長の片岡巌協会顧問が主宰する「落語を聞く会」を知りさっそく入会。高校生から趣味という落語にどっぷり浸かれる環境に感謝し、人柄の良さで交流の場も広がっている。

実はこれまで中国には行った事がないという滝澤さんだが、この頃は「来年の『夢基金』の卒業式には是非、参加してみたい」と前向きな発言も飛び出す。是非、最愛の奥様を同行し雲南の地を踏まれることをお勧めしたい。

11万人の祭典！グローバルフェスタJAPAN2011出展報告！

世界各国の子どもたちから寄せられた「日本がんばれ」のメッセージ

日本最大の国際協力イベントであるグローバルフェスタ、今年は 10 月 1 日（土）、2 日（日）の 2 日間、東京日比谷公園にて開催されました。協会の出展は今回で 8 回目。国際協力の必要性や政府・国際機関・NGO の活動を広く周知するイベントには、世界各国の支援を行う団体や大使館が多数出展、2 日間の来場者はなんと 11 万人を超えました！

前日の搬入から 2 日目の撤出まで、ボランティアをしてくださった皆さんは全部で 20 名。うち、初めて協会活動に参加してくださった方は7名で、協会のことを知って頂くとてもいい機会になりました。また、本番の2日間で30,024円もの募金を頂戴しました。募金してくださった方を始め、お立ち寄りくださった全ての皆さん、そしてボランティアの皆さんに心から御礼申し上げます。

【ボランティア協力（敬称略・順不同）】 滝澤崇、土田淳志、林則幸、近藤毅一、近藤森雄、滝澤崇、佐々木英介、千々岩哲、高山大介、李劼、岩沙圭、久嶺智弘、長谷部愛花、頓楠、瞿一達、Emma Wei、姉名樹理、徐芝りょう、田村宏隆、中洲麗子、木本一彰、弓立伸也、東京本部事務局（初鹿野恵蘭、高橋瑞季、山田美葉）

恒例！ナイスショットで教育支援

第7回雲南省少数民族貧困児童・教育支援チャリティーゴルフコンペ

優勝した矢野俊博さん（技術評論社）

10月9日（土）、山梨県大月市の大月カントリークラブで、7回目となる協会主催チャリティーゴルフコンペが行われました。

今回ご参加頂いたのは、16組61名の皆さん。恒例のチャリティーホールとなった18番ホールでは、皆さんからグリーンを外したペナルティ1000円（乗った方はお祝い1000円）を、少数民族衣装の協会職員がその場で頂戴しました。

毎年チャリティーコンペで集まるご寄付により、現在、6人の雲南少数民族貧困地区出身の学生を支援しています。一昨年から応援している「25の小さな夢基金」女子高生3名は、今年9月、無事3年生に進級しました。また、昨年からは、シャングリラ県出身の学生3人の学費援助も行っています。3人は山岳地の貧困地区出身で、大学に合格したものの、学費捻出に窮しているところでしたが、当コンペの支援により、昨年9月よりそれぞれ無事に大学へ進学しています。

チャリティーゴルフコンペにご参加・ご協力くださった全ての皆さまに、改めてお礼申し上げます。継続的な支援を行うためにも、また、来年以降も是非、ゴルフを楽しみながらの教育支援にご協力ください！

【協賛（敬称略）】(株)絶半ホールディングス、(株)技術評論社、日本産業投資技術促進(株)、村上製本所、昭和情報プロセス(株)、(株)大月カントリークラブ、JR総連、参加者の皆さま

国際協力を目指す若者が多数参加！
聯誼協会活動報告会@JICA地球ひろば

協会巡回写真展「笑顔を君に」のJICA地球ひろばでの開催に合わせ、8月28日(日)に初鹿野理事長による活動報告会が行われました。

雲南への"帰国"を翌日に控えた平田支部長も講演者として参加

当日は、昆明への"帰国"を翌日に控えた平田支部長もゲストパネリストとして参加。日曜朝10時半開始という時間設定にも関わらず、17名の方においで頂きました。国際協力への興味から参加し、今回の報告会で初めて協会の活動や中国雲南省の現状を知ったという若者も多く、実りある報告会になりました。また、若者の多くが、ボランティアとして協会活動に携わりたいと感想を述べてくれただけではなく、当日会場で1名の方にご入会頂きました。

国際協力をめざす若者がたくさん集まり、熱い議論が飛び交いました

報告会では、まず、協会の10年に渡る活動を分かりやすくまとめた25分のVTRをご覧頂き、その後、初鹿野理事長が「なぜ雲南に支援をするのか」ということを、中国における都市と農村の格差と少数民族の教育問題という視点からパワーポイントを使って説明。メインパートでは、11年間の支援活動の成果と今後の展望を「変化」「絆」「未来を担う若者たち」という3つのキーワードに基づいて、理事長と平田支部長のフリートークというかたちで自由にお話し頂きました。途中、マイクを持った理事長が、会場の若者に話しかけるシーンもあり、普通の活動報告会とは一味違った、双方向のコミュニケーションの場となりました。

会場となったJICA地球ひろばのロビースペースでは協会の活動写真展も開催

参加者の感想

- ●少数民族の人達は中国語が話せないということを初めて知って、小学校教育の重要さが分かった。日本の地震に対する雲南の人達の反応から、協会と雲南の人達との絆に感動した。
- ●体制としての中国には難しさも感じますが、雲南の人々の様子を映像で拝見すると、"人"と"人"がつながっていて希望を感じました。
- ●協会の方の一方的な報告ではなく、参加者を巻きこんだ双方向のコミュニケーションが取られていて、アットホームな雰囲気で良かったです。

大成功！ 協会写真展「笑顔を君に」inさいたまのご報告！

7月20日(水)～7月25日(月)、JR浦和駅東口パルコ9階コムナーレ展示場において、協会写真展「笑顔を君に」を開催しました。

会場は浦和駅前のパルコ9階と言う好条件でしたが、初日の7月20日は台風6号の影響で来場者が少なく不安もありました。しかし、翌21日からは沢山の方々のご来場を頂きました。会場は8～10階がさいたま市の公共施設で、「写真展会場」は9階の一部。この階には国際交流協会や事務所もあり、その他のスペースを市民の小会議場に開放しています。

写真展の会場は一番奥に位置し、各主催者がパネル20枚を自由に移動させて設営します。設営には本部から滝澤崇イベント部長、高橋瑞季さん、支部からは寺内支部長他6名が参加、会場は四角に囲まず、遠くからも見えるようにオープンセットの形で仕上げました。

時節柄、9階全体が節電体制の為、写真展会場だけにスポットライトが当たり、ここだけが明るいので、エレーベーターを降りると、自然に写真展の会場に足を運んでしまうようなレイアウトです。

展示写真は、東京本部の40点に加え、大宮支部の「旅行者から見た雲南省写真展」24点。この他、少数民族衣装を着た人形 5体、受付の大きなテーブルには協会の案内状や会報、雲南省の書籍や少数民族の人形などが飾られ、会場に花を添えました。

写真展の運営はのべ40名のボランティア協力に支えられました

いつも大活躍の寺内支部長。大宮支部長。期間中訪れてくださった協会顧問・新井淳一ご夫妻とともに

開催の6日間で、芳名録にご記帳戴いた方は120名余、その他全体のご来場者は約300名。雲南を旅した人、これから雲南に行く人、みな熱心に説明者との会話を楽しんでおられました。

猛暑の中協力してくださった、大宮支部の方々を含め、延べ40名余の会員・ボランティアの皆さん、本当にお疲れ様でした。心よりお礼申し上げます。（鳥羽清弘＝協会会員）

【ボランティア協力(順不同・敬称略)】川口邦夫、高橋福子、市川由美子、丸田智代、服部恵美子、久嶽智弘、青柳茂樹、小川輝夫、小野保、平林知人、郭靖、蘇麗萍、鳥羽清弘、寺内明子大宮支部長、滝澤崇、高橋瑞季(東京本部事務局)

雲南省政府・企業と交流―多分野に渡る提携を目指して

初鹿野理事長 国際協力シンポジウムでパネリストをつとめる

9月14日、東京都文京区で行われた国際協力シンポジウム2011（主催：WFWP国際協力シンポジウム実行委員会）に当協会の初鹿野惠蘭理事長がパネリストとして参加、「平和で安定した社会の実現に向けて、日本の果たす役割と私たちが今できること」というテーマの下、国際協力活動の第一線で活躍する他のパネリストや専門家と一緒に問題提起を行いました。

9月25日から29日にかけて、第3回「夢はかなう」講演会および支援校児童健診のために昆明入りしていた初鹿野惠蘭理事長率いる協会一行は、滞在期間中、更なる協力の可能性を探るため、さまざまな現地の企業や政府関係者と交流を行いました。

26日には松茸を扱う現地商社社長らと会食、雲南省商務庁の王健偉副長官も加わり、食問題について意見交換を行いました。

28日正午は、雲南省僑務弁公室・楊光明主任、張新民副主任らと会食。協会にとって長年のパートナーである僑務弁公室は、教育支援だけでなく、経済面における提携についての期待を表明しました。同日夕方には昆明市の王道興副市長率いる代表団と会談、農業技術や環境保護技術等の日雲企業間提携について意見を交わしました。会見で、王副市長は、聯誼協会の長年に渡る支援活動とその成果に謝意を表すると共に、日雲企業間交流の架け橋となって欲しいと話しました。

❶ 雲南省僑務弁公室・楊光明主任らと会食
❷ 昆明市・王道興副市長をはじめ、同市農業局・投資促進局などの代表が協会一行と会談
❸ 池田弘ーアサヒ GH(株)相談役と王副市長
❹ 左から丘ヤス氏、石井勝己氏、三木秀雄氏、初鹿野理事長、新井淳一協会顧問、池田氏、王副市長以下昆明市代表団

平田特命支部長インタビュー！その3 ブラウン管の住人

部屋に時代物のブラウン管テレビが1台ある。見ることができるチャンネルはCCTV（中国中央電視台）の「総合」放送と「軍事・農業」放送、雲南TV、昆明TVの合計10チャンネルほどだが、テレビを見る時間はあまりないので、CCTVと昆明TVの朝と夜の「新聞」（ニュース）は見るようにしている。

昆明TVのニュースを見ていて面白いことに気がついた。一つは、ニュースの「再放送」である。夕方に放送したニュースが、その夜も翌日の朝も番組ごとそっくりそのまま放送される。日が変わってもニュースは前日と同じ。日々変化を遂げている中国にあって、昆明の日々は変化していないのだろうか。2つ目は、主持人（アナウンサー）が映し出される画面の下の方に「主持人の衣装は○○○（販売店名）の協力」というクレジットが表示されることである。スポンサーに都合の悪いニュースはどうなるのだろうか、といらぬ詮索をしてしまう。そういえば、中国人学生も留学生もほとんどテレビを見ないそうだ。夜遅くに忙しい所為もあるのだろうが、彼らの情報源はインターネットだ。「中国のテレビは面白くない」と学生の1人が口目をつぶって笑っていた。

ある日、行きつけのカフェで垢抜けた服装の女性に出会った。昆明TVの主持人だそうで、番組の録画をしているところだった。昆明でも「テレビに出る人」はどこか華やかである。

【左】張力戈さん
32歳／職業：教師／夫と二人暮らし／大切なもの：プロポーション／夢：世界旅行／尊敬する人物：両親／日本を知っているか：知ってるわ！悪くないわね。

【右】林蔵洪さん
23歳／職業：TVタレント／大切なもの：愛／夢：世界旅行／尊敬する人物：父親／日本を知っているか：知っている！いいね。

連載 鏡頭裏的世界 -レンズの中の世界-
No.9 初めての花嫁衣裳

グローバルフェスタの協会ブースを訪れた男子大学生、スタッフに乗せられ着ようとしているのはなんとチワン族の花嫁衣裳。ハニカミ具合も花嫁のようで、意外にお似合いです！
（撮影：佐々木英介2011年10月東京・日比谷公園）

皆様のご投稿をお待ちしております！
【データ】yunnan@jyfa.org
【郵　送】〒162-0846 新宿区市谷左内町21-13日本雲南聯誼協会「レンズの中の世界」係

イベント情報

第32回八王子いちょう祭り
日時：11月19日(土)20日(日) 10時～夕方
場所：西八王子（東京都八王子市甲州街道）
主催：八王子いちょう祭り祭典委員会

協会写真展「笑顔を君に」in福岡
日時：12月13日(火)～18日(日)
場所：NHK福岡放送局NHKギャラリー（福岡県福岡市）
主催：日本雲南聯誼協会

初鹿野惠蘭理事長による活動報告会
日時：12月13日(火)　午後
場所：NHK福岡放送局NHKギャラリー（福岡県福岡市）
主催：日本雲南聯誼協会

日本と雲南少数民族友好のゆうべ 第11回チャリティー忘年会
日時：12月17日(土)17時～
ビヤステーション恵比寿（東京都渋谷区）
主催：日本雲南聯誼協会

協会写真展「笑顔を君に」in多摩
日時：2012年2月16日(木)～20日(月)仮
場所：京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター 5Fブリッジギャラリー（東京都多摩市）
主催：日本雲南聯誼協会

雲南を彩る25の星たち　連載第19回
ラフ族

中央が李英さん。ラフの伝統衣装をまとって、協会10周年記念式典に参加しました

ラフ族は東南アジア共通の民族で、45万人が雲南省に暮らしています。他にミャンマーに15万人、タイに10万人がいて、ベトナムやラオスにも分布しています。

ラフ族はイ族、ナシ族などの民族と同様、古代の羌族と共通の祖先を持っています。青海チベット高原から南へ移住する中で形成され、10世紀後半に雲南大理から大規模な南遷を始めて、やがて東南アジア全域に拡散しました。山岳民族として有名で、狩猟採集の文化を色濃く残しており、性格の温和さとホスピタリティの豊かさはピカイチです。

他の民族同様、歌や口頭文学など様々な芸術に長けており、祭りなどの伝統文化も継承されていますが、特徴的なのはその世帯構成。ラフ族の家庭は親戚同士で世帯を形成し、一般的には6～7家族、大きいものになると20～30家族で1世帯となるそう。また、結婚後に夫が5年～10年妻の家で暮らす決まりがあり、離婚は社会的に許されず、離婚する場合は罰金を払う制度もあるといいます。

昨年の10周年記念式典に来日した「25の小さな夢基金」李英さんも、プーアル市出身のラフ族でした。機会があれば、家族のことや結婚のことなど、色々聞いてみたいですね。そういえば、「ラフ」とは民族の言葉で「火で虎の肉を焼く」という意味だそう。これも李英さんに確かめてみないと！（雲南支部）

編集後記

某誌の企画で、話題の格安航空に乗り茨城―上海間を往復した。最安値の 4,000 円のチケットは売り切れ 8,000 円と 12,000 円だったが、180 人の座席はほぼ満席で搭乗客は日中が五分五分。予想以上のサラリーマンの姿も。機内サービスは水さえ出ない徹底ぶりで、食事や飲料はすべて有料。到着間際にはゴミの回収がやってくる。ご丁寧にエコノミー症候群をほぐす体操付きだった。いやはや、座席は 90 度の直角さえがまんすれば上海行きは何とか OK か。（大越）